

日 ～第10回南九州市乗用型茶摘採競技大会～ 本一の産地を支える技術を競う

7月6日、知覧町塩屋の汐見原集団茶園（菊永茶生産組合 所有）で、市乗用型茶摘採競技大会が開催。この大会は、茶業の大型機械化体系促進と機械操作技術の向上を目的に始まり、10回目となる今回は、知覧茶銘柄統一と市制10周年を記念する大会として、メンズ（男性）部門に加え、レディース（女性）部門も行われました。競技者たちは、多くの観客が見守る中、日本一の産地を支える技術を披露。また、県農業開発総合センター茶業部、松元機工（株）、日本計器（株）が共同開発したカメラセンサーによる無人摘採機も参加し、にぎやかな大会となりました。



▲メンズの部で最優秀技術賞を受賞した折尾製茶（左）。その隣は、高い性能を披露した無人摘採機。



大会結果(敬称略)

賞	茶工場名	競技者名
		補助者名
メンズの部		
最優秀技術賞	折尾製茶	松元 洋一
		折尾 幸治
優秀技術賞	(有)丸秀製茶	吉永 忠志
		吉永 久枝
レディースの部		
最優秀技術賞	大隣岳茶生産組合	大隣 紗苗
		衛藤 真二
優秀技術賞	(有)エイティー	別府 宏子
		別府 宏一

ど ～霜出校区子ども会フェスティバル～ ろんこまみれの運動会

6月18日、第3回どろんこ運動会が霜出校区子ども会フェスティバルとして、霜出緑の少年団との共催により開催されました。どろんこフラッグや二人三脚、棒引きなど5種目の競技が行われ、どろんこを思いっきり楽しみ、泥を通じて友だち・親子の触れ合いの大切さや、外で遊ぶ楽しさをみんなで再認識できたようでした。表彰式では、全力でどろんこにまみれ、遊んだ子どもたちが表彰されました。



▲どろんこフラッグで、泥に負けずに旗をめがけて飛び込む子どもたち。

田 (農)たべた主催の田んぼアート～ 植えて地域の夢を描く

川辺町田部田で、田んぼアートの田植えがありました。6月24日は主催者とボランティアの皆さんで複雑な部分を植付けし、翌日25日には地域の子もたちや保護者の皆さんも参加して仕上げました。

今年は田んぼの運動会もあり、恒例のたべた女性部手作りの豚汁・おにぎりの振舞いと共に好評でした。地域おこしの願いが込められた田んぼアート。どんな絵が描かれたのか、稲の成長が楽しみです。



▲25日の田植え。時折、雨が降る中、小さな子どもたちも地域への思いを込めて稲を植えていました。

農

～市内中学生の職場体験～ 業と働くことを知る

颯娃農業開発研修センターでは、子どもたちに農業を知ってもらおうと職場体験学習を受入れています。

今年は、颯娃中学校3年生の3人が、トマトの収穫



▲トマトが傷まないよう心を込めて収穫する職場体験中の3人。

などを体験し、「作業は大変だが、おいしい野菜ができることや、仕事に対する満足感とやりがいを知りました」と話しました。

ヒ

～小学生が水産体験学習～ ラメを放流したよ！

6月16日、颯娃町石垣港で、鹿児島水産高等学校の生徒が先生となり水産体験学習を開催。市内4小学校の児童81人が参加し、ヒラメの稚魚1200尾を放



▲「大きくなって、帰ってきてね～」と願いを込めながらヒラメの稚魚を放流しました。

流するほか、鹿児島の水産業について学びました。子どもたちは「楽しかった、また魚の放流をしたい」と話していました。

楽

～人権擁護委員による人権啓発活動～ しみながら人権意識を育む

6月24日、颯娃町別府のちどり保育園で、人権擁護委員による“わくわくじんけんルーム”が開催されました。

園児たちは、人権イメージキャラクター人KENまもる君



▲人KENまもる君・あゆみちゃんが登場すると、園児たちより歓声が上がりました。

たちとの交流や紙芝居などを通して人権について学び、「ケンカをしない・いじめをしない・悪口を言わない」と3つの約束をしました。

全

～第46回九州地区消防救助技術指導会～ 国レベルの救助技術！

6月30日、沖縄県での九州地区消防救助技術指導会に指宿南九州消防組合が出場し、引揚救助の部で3位に入賞。5月26日の県大会で1位となったロー



▲引揚救助の5人(敬称略)。左から二井識嗣(指宿)、田中佑太郎(知覧)、吉崎功志(颯娃)、梅橋知弘(川辺)、北園直忠(川辺)。

プブリッジ渡過の部と共に、8月23日に宮城県で開催の全国大会へ出場します。全国レベルの技術で市民の安心・安全を守ります。

棒

～飯倉神社のお田植祭り～ 踊りや田の神舞を奉納

7月2日、県内でも最も遅く開催されるお田植祭りとして有名な“飯倉神社のお田植祭り”が行われました。

勇壮な“棒踊り”や猿田彦を先頭に練り歩く“浜下り”、



▲川辺町宮の3自治会が交代で奉納する棒踊り。今年は松崎自治会の12人が披露。

早乙女らによる“田植え”や拝殿での“田の神舞”など、さまざまな行事が行われ、地域の方や各地からの観覧者にぎわいました。

犯

～7月は社会を明るくする運動の強調月間～ 罪のない社会を目指して

市の保護司25人は、罪を犯した人を社会へ復帰させるため、地域でさまざまな活動をしています。7月3日は、颯娃・知覧・川辺の支部ごとに、登校する児童



▲総理大臣と県知事からのメッセージを伝達した保護司の皆さんと市長。

生徒へのあいさつ運動や広報活動を行い、総理大臣と県知事からの犯罪のない社会を目指すメッセージを市長へ伝達しました。